

別表 (A) — I

薬学専攻			
博士課程			
授業科目	講義 その他の 区分	授業を 行う 年次	単位数
【医療薬学基盤科目】			
医薬品開発特論Ⅰ	講義	1・2	2
医薬品開発特論Ⅱ	〃	1・2	2
臨床薬理学特論	〃	1・2	2
生体機能解析学特論	〃	1・2	2
食品機能解析学特論		1・2	2
予防医療学特論	〃	1・2	2
ゲノム解析学特論	〃	1・2	2
感染症学特論	〃	1・2	2
薬動学特論	〃	1・2	2
薬物分析化学特論	〃	1・2	2
医薬品作用学特論	〃	1・2	2
臨床薬物動態学特論	〃	1・2	2
薬剤疫学特論	〃	1・2	2
漢方薬学特論	〃	1・2	2
【医療薬学応用科目】			
画像診断学特論	講義	3・4	2
臨床診断学特論	〃	3・4	2
病態解析学特論	〃	3・4	2
地域医療実践学特論	〃	3・4	2
環境感染学特論	〃	3・4	2
医薬品情報演習	演習	3・4	1
E B M実践演習	〃	3・4	1
T D M実践演習	〃	3・4	1
薬物相互作用解析演習	〃	3・4	1
臨床薬学総合実習	実習	2～4	4
【基盤研究科目】			
実験計画演習	演習	1	2
情報処理演習	〃	1	2
基盤研究総合実習	〃	1	2
課題研究	実験	1～4	10
【専門薬剤師科目】			
専門薬剤師特別講義	講義	1～4	2

別表 (A) — II

生命薬科学専攻			
修士課程			
授業科目	講義 その他の 区分	授業を 行う 年次	単位数
【専門コア科目】			
創薬化学特論 I	講義	1・2	2
同 II	〃	1・2	2
同セミナー I	演習	1・2	2
同 II	〃	1・2	2
生命物理学特論 I	講義	1・2	2
同 II	〃	1・2	2
同セミナー I	演習	1・2	2
同 II	〃	1・2	2
分子生命科学特論 I	講義	1・2	2
同 II	〃	1・2	2
同セミナー I	演習	1・2	2
同 II	〃	1・2	2
衛生薬学特論 I	講義	1・2	2
同 II	〃	1・2	2
同セミナー I	演習	1・2	2
同 II	〃	1・2	2
薬理学特論 I	講義	1・2	2
同 II	〃	1・2	2
同セミナー I	演習	1・2	2
同 II	〃	1・2	2
薬剤学特論 I	講義	1・2	2
同 II	〃	1・2	2
同セミナー I	演習	1・2	2
同 II	〃	1・2	2
課題研究	実験	1～2	18
【生命薬科学科目】			
生命薬科学特論 I (生体機能解析)	講義	1・2	1
生命薬科学特論 II (遺伝子機能解析)	〃	1・2	1
生命薬科学特論 III (病態解析)	〃	1・2	1
生命薬科学特論 IV (タンパク機能解析)	〃	1・2	1
生命薬科学特論 V (薬物標的分子解析)	〃	1・2	1
生命薬科学特論 VI (食品機能解析)	〃	1・2	1
生命薬科学特論 VII (ゲノム薬理学)	〃	1・2	1
【がん専門科目】			
がん特論 I (がん病態学総論)	講義	1・2	1
がん特論 II (がん病態学各論)	〃	1・2	1
がん特論 III (がん化学療法)	〃	1・2	1
がん特論 IV (抗がん剤動態解析)	〃	1・2	1

別表 (B) — I

区分	薬学専攻	
	授業科目等	修得 単位数
必修	実験計画演習	2
	情報処理演習	2
	課題研究	10
選択	医療薬学基盤科目	10以上
	医療薬学応用科目	6以上
	合計	30以上
備考	・ 専門薬剤師科目は修了必要単位数に含まない。	

別表 (B) — II

区分	生命薬科学専攻	
	授業科目等	修得 単位数
必修	所属研究分野の特論	4
	所属研究分野のセミナー	4
	課題研究	18
選択	他の研究分野の特論・セミナー または生命薬科学科目	4以上
	合計	30以上
備考	・ 上記のほか、がん専門コースを履修する学生は、がん専門科目を必修とする。	

別表(C)

授業科目	講義その他の区分	単位数	備考
【研究コース】			
＜解剖学＞			
解剖学特論	講義	2	
同実習	実習	4	
口腔解剖学特論	講義	2	
同実習	実習	4	
＜組織学＞			
組織学特論	講義	2	
同実習	実習	4	
口腔組織学特論	講義	2	
同実習	実習	4	
＜生理学＞			
人体生理学特論	講義	2	
同実習	実習	4	
口腔生理学特論	講義	2	
同実習	実習	4	
＜生化学＞			
生化学特論	講義	2	
同実習	実習	4	
口腔生化学特論	講義	2	
同実習	実習	4	
＜臨床口腔病理学＞			
病理学特論	講義	2	
同実習	実習	4	
口腔病理学特論	講義	2	
同実習	実習	4	
＜微生物学＞			
微生物学特論	講義	2	
同実習	実習	4	
口腔微生物学特論	講義	2	
同実習	実習	4	
＜薬理学＞			
薬理学特論	講義	2	
同実習	実習	4	
歯科薬理学特論	講義	2	
同実習	実習	4	
＜生体材料工学＞			
生体材料工学特論	講義	2	
同実習	実習	4	
歯科生体材料工学特論	講義	2	
同実習	実習	4	
＜保健衛生学＞			
保健衛生学特論	講義	2	
同実習	実習	4	
口腔保健衛生学特論	講義	2	
同実習	実習	4	
＜歯周歯内治療学＞			
歯周病学特論	講義	2	
同実習	実習	4	
歯内療法学特論	講義	2	
同実習	実習	4	
＜う蝕制御治療学＞			
う蝕制御治療学特論Ⅰ	講義	2	
同実習	実習	4	
う蝕制御治療学特論Ⅱ	講義	2	
同実習	実習	4	
＜咬合再建補綴学＞			
全部床義歯補綴学特論	講義	2	
同実習	実習	4	
部分床義歯補綴学特論	講義	2	
同実習	実習	4	
＜クラウン・リッジ・インプラント補綴学＞			
歯冠補綴学特論	講義	2	
同実習	実習	4	
橋義歯補綴学特論	講義	2	
同実習	実習	4	
＜組織再建口腔外科学＞			
口腔外科学特論Ⅰ	講義	2	
同実習	実習	4	
口腔外科学特論Ⅱ	講義	2	
同実習	実習	4	

<顎顔面口腔外科学>			
口腔外科学特論Ⅲ	講義	2	
同実習	実習	4	
口腔外科学特論Ⅳ	講義	2	
同実習	実習	4	
<歯科矯正学>			
矯正歯科学特論Ⅰ	講義	2	
同実習	実習	4	
矯正歯科学特論Ⅱ	講義	2	
同実習	実習	4	
<小児歯科学>			
小児歯科学特論Ⅰ	講義	2	
同実習	実習	4	
小児歯科学特論Ⅱ	講義	2	
同実習	実習	4	
<歯科放射線学>			
歯科放射線学特論Ⅰ	講義	2	
同実習	実習	4	
歯科放射線学特論Ⅱ	講義	2	
同実習	実習	4	
<歯科麻酔学>			
歯科麻酔科学特論Ⅰ	講義	2	
同実習	実習	4	
歯科麻酔科学特論Ⅱ	講義	2	
同実習	実習	4	
(共通科目)			
歯科医学課題研究	講義	4	
歯科医学特別演習	講義	4	
歯科総合治療学Ⅰ	講義	2	
歯科総合治療学Ⅱ	講義	2	
歯科医学研究総論	講義	2	
研究方法論Ⅰ	講義	1	
研究方法論Ⅱ	講義	1	
(特論科目)			
歯科医学特論Ⅰ	講義	1	
歯科医学特論Ⅱ	講義	1	
歯科医学特論Ⅲ	講義	1	
歯科医学特論Ⅳ	講義	1	
歯科医学特論Ⅴ	講義	1	
歯科医学特論Ⅵ	講義	1	
歯科医学特論Ⅶ	講義	1	
歯科医学特論Ⅷ	講義	1	
病態生理学特論	講義	1	
細胞生物学特論	講義	1	
分子生命科学特論	講義	1	
内科学特論	講義	1	
内科系疾病学特論	講義	1	
外科系疾病学特論	講義	1	
医薬品情報科学特論	講義	1	
遺伝医学・医療特論	講義	1	
生殖医療文化学特論	講義	1	
感染症学特論	講義	1	
腫瘍学特論	講義	1	
臨床腫瘍・感染症学特論	講義	1	
臨床小児医学・臨床遺伝学特論	講義	1	
心身医学特論	講義	2	
臨床心理学特論	講義	1	
非言語行動学特論	講義	2	
ヘルスケア特論	講義	1	
医療社会学特論	講義	1	
在宅ケア特論Ⅰ	講義	1	
在宅ケア特論Ⅱ	講義	1	
在宅ケア特論Ⅲ	講義	1	
在宅ケア特論Ⅳ	講義	1	
在宅ケア特論Ⅴ	講義	1	
在宅ケア特論Ⅵ	講義	1	
(自由選択科目)			
日本語コミュニケーション	講義	(2)	
<p>1 < >は専攻科目を示す。</p> <p>2 単位数欄が()の科目は、自由選択科目を示し、修了単位に含まない。</p> <p>3 各専攻に関わる授業科目から12単位、他の専攻に関わる授業科目、共通科目、特論科目のうちから18単位以上、計30単位以上を修得するものとする。</p>			

【認定医・専門医養成コース】

<口腔外科> 口腔外科学特論 同実習 同臨床実習	セミナー 実習 臨床	2 2 10	
<歯周病> 歯周病学特論 同実習 同臨床実習	セミナー 実習 臨床	2 2 10	
<小児歯科> 小児歯科学特論 同実習 同臨床実習	セミナー 実習 臨床	2 2 10	
<歯科麻酔> 歯科麻酔学特論 同実習 同臨床実習	セミナー 実習 臨床	2 2 10	
<保存治療> 保存治療学特論 同実習 同臨床実習	セミナー 実習 臨床	2 2 10	
<レーザー歯学> レーザー歯学特論 同実習 同臨床実習	セミナー 実習 臨床	2 2 10	
<補綴歯科> 補綴歯科学特論 同実習 同臨床実習	セミナー 実習 臨床	2 2 10	
<口腔インプラント> 口腔インプラント学特論 同実習 同臨床実習	セミナー 実習 臨床	2 2 10	
<矯正歯科> 矯正歯科学特論 同実習 同臨床実習	セミナー 実習 臨床	2 2 10	
<顎関節> 顎関節症学特論 同実習 同臨床実習	セミナー 実習 臨床	2 2 10	
<口腔衛生> 口腔衛生学特論 同実習 同臨床実習	セミナー 実習 臨床	2 2 10	
<障害者歯科> 障害者歯科学特論 同実習 同臨床実習	セミナー 実習 臨床	2 2 10	
<歯科放射線> 歯科放射線学特論 同実習 同臨床実習	セミナー 実習 臨床	2 2 10	
<老年歯科> 老年歯科学特論 同実習 同臨床実習	セミナー 実習 臨床	2 2 10	
<口腔病理> 口腔病理学特論 同実習 同臨床実習	セミナー 実習 臨床	2 2 10	
(必修科目) 歯科医学研究総論* EBM総論*	講義 講義	2 2	
1 < >は認定医・専門医を示す。 2 *は1年次の必修科目 3 必修科目4単位、各専攻認定医・専門医に関わる授業科目14単位以上および研究コースの共通科目、特論科目のうちから12単位以上、計30単位以上を修得するものとする。			

別表(D)
看護学専攻(博士前期課程)

授業科目の名称	配当年次	単位数		備考
		必修	選択	
[看護学専攻コア科目]				
【基礎・統合領域】				
基礎看護学特論	1		2	
看護管理学特論	1		2	
地域看護学特論	1		2	
在宅看護学特論	1		2	
感染看護学特論	1		2	
高度実践看護学特論Ⅰ	1		2	
高度実践看護学特論Ⅱ	1～2		2	
基礎看護学演習	1～2		4	
看護管理学演習	1～2		4	
地域看護学演習	1～2		4	
在宅看護学演習	1～2		4	
感染看護学演習	1～2		4	
高度実践看護学演習Ⅰ	1		2	
高度実践看護学演習Ⅱ	1～2		4	
【発達・障害領域】				
小児看護学特論	1		2	
母性看護学特論	1		2	
成人看護学特論	1		2	
老年看護学特論	1		2	
精神看護学特論	1		2	
がん看護学特論	1		2	
小児看護学演習	1～2		4	
母性看護学演習	1～2		4	
成人看護学演習	1～2		4	
老年看護学演習	1～2		4	
精神看護学演習	1～2		4	
がん看護学演習	1～2		4	
臨地実習Ⅰ	1	2		
看護学課題研究	2		6	
臨床看護学課題研究	2		2	
[看護学専攻選択科目]				
感染症学特論	1・2		2	
感染予防学特論	1・2		2	
感染制御薬理学特論	1・2		2	
腫瘍学特論	1・2		2	
病態治療論	1・2		2	
臨床解剖生理学論(高度実践看護)	1・2		2	
病態治療論(高度実践看護)	1・2		2	
薬理学特論(高度実践看護)	1・2		2	
疾病予防・管理論(高度実践看護)	1・2		2	
ヘルスアセスメント特論Ⅰ(高度実践看護)	1・2		2	
ヘルスアセスメント特論Ⅱ(高度実践看護)	1・2		2	
保健福祉論Ⅰ(慢性病)	1・2		2	
保健福祉論Ⅱ(精神障害)	1・2		2	
看護教育特論	1・2		2	
看護学教育基礎論	1・2		2	
看護学教育基礎演習	1～2		4	
看護管理特論	1・2		2	
看護理論特論	1・2		2	
看護倫理特論	1・2		2	
コンサルテーション論	1・2		2	
家族ケア論	1・2		2	
臨地実習Ⅱ	1～2		4	臨地実習Ⅱは高度実践コース(CNS、NP)、Ⅲ～Ⅳは高度実践コース(NP)の限定科目である。
臨地自習Ⅲ	1～2		4	
臨地実習Ⅳ	1～2		6	
[看護福祉学研究科共通科目]				
研究方法論Ⅰ(研究計画法)	1・2		2	
研究方法論Ⅱ(質的研究法)	1・2		2	
研究方法論Ⅲ(量的研究法)	1・2		2	
研究方法論Ⅳ(公衆衛生調査法)	1・2		2	
地域生活ケアⅠ(高齢者)	1・2		1	
地域生活ケアⅡ(精神障害)	1・2		1	
地域生活ケアⅢ(緩和ケア)	1・2		1	
地域生活ケアⅣ(薬理学特論)	1・2		1	
地域生活ケアⅤ(顎口腔機能学特論)	1・2		1	
地域生活ケアⅥ(子ども)	1・2		1	
遺伝医学・医療論	1・2		1	
ヘルスプロモーション論	1・2		2	
精神医学特論	1・2		2	

カウンセリング	1・2	2
生殖医療文化論	1・2	1
心身医学特論	1・2	1

《修士課程修了要件》

- 1) 看護学専攻コア科目は、専攻分野の特論科目2単位と演習科目4単位、また臨地実習Ⅰの2単位を修得する。
- 2) 「看護学課題研究」6単位を修得する。(ただし、高度実践コース(CNS)の一部の分野、また高度実践コース(NP)の者は「臨床看護学課題研究」2単位をもって替えることができる)
- 3) 看護福祉学研究科共通科目において、「研究方法論」Ⅰ～Ⅳは2科目4単位以上を修得する。
- 4) その他、看護学専攻コア科目、看護学専攻選択科目および看護福祉学研究科共通科目から14～18単位以上修得する。
- 5) 原則として2年以上在学し、所定の授業科目について32単位以上を修得し、必要な研究指導を受け、かつ、学位論文の審査及び最終試験に合格すること。

＜資格等取得に係る要件＞

- 1) 高度実践コース(CNS)の者が、専門看護師資格審査の受験資格を取得するためには、上記の修了要件を満たすほか、別に分野ごとに指定する科目の修得が必要である。
- 2) 高度実践コース(NP)の者は、上位の修士課程修了要件を満たすほか、別に指定する科目の修得が必要である。また、当該コースの別に指定する科目は、厚生労働省の定める特定行為研修として指定されている科目を含む。
- 3) 高度実践コース(NP)を修了するには、コースで行う修了試験に合格することが必要である。

別表(D)
看護学専攻(博士後期課程)

授業科目の名称	配当年次	単位数		授業題目
		必修	選択	
[看護学専攻科目] 【基礎・統合領域】 基礎・統合看護論	1・2		2	基礎看護論 看護管理論 地域看護論 感染看護論
基礎・統合看護論演習	1・2		4	基礎看護論演習 看護管理論演習 地域看護論演習 感染看護論演習
【発達・障害領域】 発達・障害看護論	1・2		4	小児看護論 母性看護論 成人看護論 老年看護論 精神看護論 がん看護論
発達・障害看護論演習	1・2		4	小児看護論演習 母性看護論演習 成人看護論演習 老年看護論演習 精神看護論演習 がん看護論演習
看護学特別研究	1～3	6		
[看護学専攻選択科目] 【高度実践看護領域】 高度実践看護論	1・2		2	ヘルスアセスメント開発論
[看護福祉学研究科共通科目] 病気・障害認識論	1・2		1	
認知症ケア論	1・2		1	
緩和ケア論	1・2		1	
医療人類学論	1・2		1	
疫学的研究方法論	1・2		1	
現象学的研究方法論	1・2		1	
<p>≪修了要件≫</p> <p>1) 看護学専攻科目は、専攻分野の看護論科目2単位並びに演習科目4単位と「看護学特別研究」の6単位を含む合計12単位を修得する。</p> <p>2) 看護福祉学研究科共通科目は選択履修とする。</p> <p>所定の授業科目について12単位以上を修得し、必要な研究指導を受け、かつ、学位論文の審査及び最終試験に合格すること。</p>				

別表(E)
臨床福祉学専攻(博士前期課程)

授業科目の名称	配当年次	単位数		備考
		必修	選択	
[臨床福祉学専攻コア科目]				
障害福祉学特論	1		2	
高齢者福祉学特論	1		2	
児童福祉学特論	1		2	
福祉疫学特論	1		2	
社会福祉学原理特論	1		2	
教育福祉学特論	1		2	
ソーシャルワーク学特論	1		2	
障害福祉学演習	1～2		4	
高齢者福祉学演習	1～2		4	
児童福祉学演習	1～2		4	
福祉疫学演習	1～2		4	
社会福祉学原理演習	1～2		4	
教育福祉学演習	1～2		4	
ソーシャルワーク学演習	1～2		4	
臨床福祉学実習	1	2		
臨床福祉学課題研究	2	6		
[臨床福祉学専攻選択科目]				
社会福祉政策学特論	1・2		2	
地域福祉情報論	1・2		2	
障害福祉研究	1・2		2	
福祉教育研究	1・2		2	
ソーシャルワーク特論	1・2		2	
医療福祉学研究	1・2		2	
[看護福祉学研究科共通科目]				
研究方法論Ⅰ(研究計画法)	1・2		2	
研究方法論Ⅱ(質的研究法)	1・2		2	
研究方法論Ⅲ(量的研究法)	1・2		2	
研究方法論Ⅳ(公衆衛生調査法)	1・2		2	
地域生活ケア論Ⅰ(高齢者)	1・2		1	
地域生活ケア論Ⅱ(精神障害)	1・2		1	
地域生活ケア論Ⅲ(緩和ケア)	1・2		1	
地域生活ケア論Ⅳ(薬理学特論)	1・2		1	
地域生活ケア論Ⅴ(顎口腔機能学特論)	1・2		1	
地域生活ケア論Ⅵ(子ども)	1・2		1	
遺伝医学・医療論	1・2		1	
ヘルスプロモーション論	1・2		2	
精神医学特論	1・2		2	
カウンセリング	1・2		2	
生殖医療文化論	1・2		1	
心身医学特論	1・2		1	

《修士課程修了要件》

- 1) 臨床福祉学専攻コア科目は、専攻分野の特論科目2単位と演習科目4単位、また臨床福祉学実習2単位を修得する。
- 2) 臨床福祉学課題研究6単位を修得する。
- 3) 看護福祉学研究科共通科目において、「研究方法論」Ⅰ～Ⅳは2科目4単位以上を修得する。
- 4) その他、臨床福祉学専攻コア科目、臨床福祉学専攻選択科目および看護福祉学研究科共通科目から14単位以上修得する。
- 5) 原則として2年以上在学し、所定の授業科目について32単位以上を修得し、必要な研究指導を受け、かつ、学位論文の審査及び最終試験に合格すること。

別表(E)
臨床福祉学専攻(博士後期課程)

授業科目の名称	配当年次	単位数		授業題目
		必修	選択	
[臨床福祉学専攻科目] 【福祉援助領域】 福祉援助論	1・2		2	障害福祉論 精神保健福祉論 高齢者福祉論 児童福祉論
福祉援助論演習	1・2		4	障害福祉論演習 精神保健福祉論演習 高齢者福祉論演習 児童福祉論演習
【福祉政策・運営領域】 福祉政策・運営論	1・2		2	地域福祉論 福祉原理論
福祉政策・運営論演習	1・2		4	地域福祉論演習 福祉原理論演習
臨床福祉学特別研究	1～3	6		
[看護福祉学研究科共通科目] 病気・障害認識論	1・2		1	
認知症ケア論	1・2		1	
緩和ケア論	1・2		1	
医療人類学論	1・2		1	
疫学的研究方法論	1・2		1	
現象学的研究方法論	1・2		1	
<p>《修了要件》</p> <p>1)臨床福祉学専攻科目は、専攻分野の福祉援助論または福祉政策・運営論科目2単位並びに演習科目4単位と「臨床福祉学特別研究」の6単位を含む合計12単位を修得する。</p> <p>2)看護福祉学研究科共通科目は選択履修とする。</p> <p>所定の授業科目について12単位以上を修得し、必要な研究指導を受け、かつ、学位論文の審査及び最終試験に合格すること。</p>				

別表(F)

臨床心理学専攻（博士前期課程）

授業科目の名称		配当年次	単位数		備考
			必修	選択	
必修科目	臨床心理学特論Ⅰ	1	2		必修科目30単位、選択必修科目から6単位以上、合計36単位以上を修得するものとする。 配当年次欄の1・2は学年を問わず履修可能な科目、1～2は2年間を通じて履修する科目を示す。
	臨床心理学特論Ⅱ	1	2		
	臨床心理面接特論Ⅰ	1	2		
	臨床心理面接特論Ⅱ	1	2		
	臨床心理基礎実習Ⅰ	1	1		
	臨床心理基礎実習Ⅱ	1	1		
	臨床心理実習Ⅰ	2	1		
	臨床心理実習Ⅱ	2	1		
	臨床心理査定特論	1	2		
	臨床心理査定演習Ⅰ	1	2		
	臨床心理査定演習Ⅱ	1	2		
	精神医学特論	1・2	2		
	臨床心理学研究法特論	1・2	2		
	臨床心理学課題研究	1～2	8		
	選択必修科目	精神力動理論	1・2		
認知行動理論		1・2		2	
人間性心理学理論		1・2		2	
家族援助特論		1・2		2	
ヘルピングスキル特論		1		2	
学校臨床心理学特論		1・2		2	
発達臨床心理学特論		1・2		2	
地域援助特論		1		2	
投影法特論		1		2	
心身医学特論		1・2		2	
社会心理学特論		1・2		2	
家族心理学特論		1・2		2	
発達心理学特論		1・2		2	
生理心理学特論		1・2		2	
学習心理学特論		1・2		2	
心理学研究法		1		2	

別表(G)

臨床心理学専攻（博士後期課程）

授業科目の名称		配当年次	単位数		備考
			必修	選択	
学習心理学研究	1・2		2	「学習心理学研究」「生理心理学研究」「臨床心理学研究」「発達心理学研究」の4教科目から1科目(2単位)以上及び「神経心理学研究」「精神医学研究」「高次脳機能障害学研究」「人体機能学研究」の4教科目から1科目(2単位)以上を修得し、「臨床心理学特別研究」とあわせて10単位以上を修得する。	
生理心理学研究	1・2		2		
臨床心理学研究	1・2		2		
発達心理学研究	1・2		2		
神経心理学研究	1・2		2		
精神医学研究	1・2		2		
高次脳機能障害学研究	1・2		2		
人体機能学研究	1・2		2		
臨床心理学特別研究	1・2	6			

別表(H)

言語聴覚学専攻（博士前期課程）

授業科目の名称		配当年次	単位数			備考
			必修	選択	自由	
臨床研究科目群	言語聴覚学臨床実習	1~2		12		1) 言語聴覚士の資格を有している者は臨床研究科目群より、言語聴覚学臨床実習(12単位)を修得する。 なお、言語聴覚士の資格を有して就労しながら履修する社会人の場合は、勤務先の臨床時間数で読み替えることができる。
	言語聴覚学特別講義	1・2		12		
専門科目群	言語聴覚病態生理学領域科目	言語聴覚解剖生理学特論	1	1		2) 言語聴覚士の資格を有していない者は臨床研究科目群より、言語聴覚学特別講義(12単位)を修得する。 3) 専門科目群の特論は6科目6単位修得する(必修科目)。就労しながら履修する社会人の場合は、集中講義により単位を取得できる。 4) 言語聴覚学課題研究は6単位修得する(必修科目)。 5) 演習は言語聴覚学課題研究の内容に関連する領域科目より2科目を含む2単位以上修得する。 就労しながら履修する社会人の場合は、集中講義により単位を取得できる。 6) コミュニケーション障害学特論は2単位修得する(必修科目)。 7) 心理科学研究科共通科目は4科目より1科目2単位以上修得する。 8) 修了要件 所定の授業科目について30単位以上を修得し、必要な研究指導を受け、かつ、学位論文の審査及び最終試験に合格すること。
		同 演習	1		1	
		言語聴覚遺伝病態学特論	1	1		
		同 演習	1		1	
	高次機能障害学領域科目	高次機能解析学特論	1	1		
		同 演習	1		1	
		高次機能障害症候・病態学特論	1	1		
		同 演習	1		1	
	言語聴覚障害学領域科目	聴覚・認知言語発達障害学特論	1	1		
		同 演習	1		1	
		発声発語・摂食嚥下障害学特論	1	1		
		同 演習	1		1	
	言語聴覚学課題研究		1~2	6		
	コミュニケーション障害学特論		1・2	2		
心理科学研究科共通科目群	精神医学特論	1		2		
	臨床心理学特論	1		2		
	発達心理学特論	1		2		
	学習心理学特論	1		2		

別表(I)

言語聴覚学専攻（博士後期課程）

授業科目の名称		配当年次	単位数			備考
			必修	選択	自由	
特殊臨床研究科目群	言語聴覚学特殊臨床実習	1・2		2		1) 言語聴覚士の資格を有している者は特殊臨床研究科目群より、言語聴覚学特殊臨床実習(2単位)を修得する。 なお、言語聴覚士の資格を有して就労しながら履修する社会人の場合は、勤務先の臨床時間数で読み替えることができる。
	言語聴覚学特殊講義	1・2		2		
専門科目群	言語聴覚病態生理学領域科目	言語聴覚解剖生理学特殊研究論	1		1	2) 言語聴覚士の資格を有していない者は特殊臨床研究科目群より、言語聴覚学特別講義(2単位)を修得する。 3) 特殊研究論は言語聴覚学特殊課題研究関連科目より1科目1単位修得する(必修科目)。就労しながら履修する社会人の場合は、集中講義により単位を取得できる。 4) 言語聴覚学特殊課題研究は12単位修得する(必修科目)。 5) 演習は言語聴覚学課題研究の内容に関連する領域科目より1科目を含む2単位以上修得する。 就労しながら履修する社会人の場合は、集中講義により単位を取得できる。 6) 修了要件 所定の授業科目について17単位以上を修得し、必要な研究指導を受け、かつ、学位論文の審査及び最終試験に合格すること。
		同 演習	1		2	
		言語聴覚遺伝病態学特殊研究論	1		1	
		同 演習	1		2	
	高次機能障害学領域科目	高次機能解析学特殊研究論	1		1	
		同 演習	1		2	
		高次機能障害症候・病態学特殊研究論	1		1	
		同 演習	1		2	
	言語聴覚障害学領域科目	聴覚・認知言語発達障害学特殊研究論	1		1	
		同 演習	1		2	
		発声発語・摂食嚥下障害学特殊研究論	1		1	
		同 演習	1		2	
	言語聴覚学特殊課題研究	1～3	12			
	コミュニケーション障害学特論	1・2			2	
心理科学研究科 共通科目群	精神医学特論	1			2	
	臨床心理学特論	1			2	
	発達心理学特論	1			2	
	学習心理学特論	1			2	

別表(J)

リハビリテーション科学専攻（博士前期課程）

授業科目の名称		配当 年次	単位数		備考	
			必修	選択		
共通科目	リハビリテーション教育特論	1・2	2		修了要件 (1) 共通科目から必修12単位を修得する。 (2) 専門科目から専攻する領域の特論・演習4単位を修得する。 (3) 研究指導8単位を修得する。 (4) 上記ならびに選択科目を含め合計30単位以上修得する。 (5) 専門科目の演習は同一科目名の特論の履修を条件とする。	
	リハビリテーション管理学特論	1・2	2			
	リハビリテーション研究法特論Ⅰ（研究計画）	1	2			
	リハビリテーション研究法特論Ⅱ（量的研究）	1	2			
	リハビリテーション研究法特論（質的研究&事例研究）	1	2			
	医療英語特論	1・2		2		
	医療経済学特論	1・2		2		
	生命科学特論	1・2		2		
	精神保健学特論	1・2		2		
	保健医療統計学特論	1	2			
専門科目	病生 態体 解剖 構造 解析 学機 分能 野	解剖学特論	1・2		2	
		解剖学演習	1・2		2	
		身体運動科学特論	1・2		2	
		身体運動科学演習	1・2		2	
		運動・動作解析学特論	1・2		2	
		運動・動作解析学演習	1・2		2	
		臨床バイオメカニクス特論	1・2		2	
		臨床バイオメカニクス演習	1・2		2	
	リハ ビリ テ ー シ ョ ン 分 野	内部障害リハビリテーション学特論	1・2		2	
		内部障害リハビリテーション学演習	1・2		2	
		運動障害リハビリテーション学特論	1・2		2	
		運動障害リハビリテーション学演習	1・2		2	
		発達障害リハビリテーション学特論	1・2		2	
		発達障害リハビリテーション学演習	1・2		2	
		精神障害リハビリテーション学特論	1・2		2	
		精神障害リハビリテーション学演習	1・2		2	
	支 援 学 分 野	地 域 健 康 生 活	作業行動学特論	1・2		2
			作業行動学演習	1・2		2
			地域生活支援学特論	1・2		2
			地域生活支援学演習	1・2		2
	隣 接 科 目	公衆衛生調査法	1・2		2	
遺伝医学・医療論		1・2		1		
心身医学特論		1・2		1		
ヘルスプロモーション論		1・2		2		
音楽療法特論		1・2		2		
障害福祉学特論		1・2		2		
高齢者福祉学特論		1・2		2		
研 究 指 導	リハビリテーション科学研究	2	8			

別表(K)

リハビリテーション科学専攻（博士後期課程）

授業科目の名称		配当 年次	単位数		備考
			必修	選択	
共通 科目	リハビリテーション科学研究法特講	1	1		修了要件 共通科目必修2単位、専門科目 のうち専門領域の特講及び演習 4単位、リハビリテーション科学特 別研究必修6単位の合計12単位 を修得する。
	リハビリテーション実践指導特講	1	1		
専門 科目	生体構造機能・病態解析学特講Ⅰ	1		2	
	生体構造機能・病態解析学特講Ⅱ	1		2	
	生体構造機能・病態解析学特講Ⅲ	1		2	
	生体構造機能・病態解析学特講Ⅳ	1		2	
	生体構造機能・病態解析学演習Ⅰ	1		2	
	生体構造機能・病態解析学演習Ⅱ	1		2	
	生体構造機能・病態解析学演習Ⅲ	1		2	
	生体構造機能・病態解析学演習Ⅳ	1			
	リハビリテーション治療学特講Ⅰ	1		2	
	リハビリテーション治療学特講Ⅱ	1		2	
	リハビリテーション治療学特講Ⅲ	1		2	
	リハビリテーション治療学特講Ⅳ	1		2	
	リハビリテーション治療学演習Ⅰ	1		2	
	リハビリテーション治療学演習Ⅱ	1		2	
	リハビリテーション治療学演習Ⅲ	1		2	
	リハビリテーション治療学演習Ⅳ	1		2	
	地域健康生活支援学特講Ⅰ	1		2	
	地域健康生活支援学特講Ⅱ	1		2	
地域健康生活支援学演習Ⅰ	1		2		
地域健康生活支援学演習Ⅱ	1		2		
特別 研究	リハビリテーション科学特別研究	1～3	6		